



1690
2

宇治川
若戸海

才一

魁對五

二之卷

目錄

傳授の師を教といはば送檣の巧

三月三日の若合耳とらつづる昔後

まきのつよいおわいりわてりて

おとぞうりつる梳糸が素面



才二

物なきを、邪人よのお後

ちねのちれけいさりのつよい徳もが
系統ろがと海は湯をんを
まろもまんとぬく一化粧

才三

長カク一のせこ丹屋の仕態

梅はが女房といききりもさ
の感えるじゅうせくもさ
なわの智謀とつがさ福徳の海

① 侍校の師と教といふは逆櫓の巧

鉄のつよきは、令剛踏のあゝんがれ犀角のうさねも、令守結
これをさうすさうやけしき勇猛さうくおしきめておさるべきを
一教一海はつらき程の本音も付され花は花屋の屋敷する
と、や治由田やちんもて巴をたてに三人の幕もつらきには
も塚の左もむけに梅のひかりもあのおんねも、梅はさうして
わりわつてさうみのふけいんも田のひかりも久くあつて、あけのね
あつてさうりあつて、あつて、あつて、あつて、あつて、あつて、あつて
けるあつて、あつて、あつて、あつて、あつて、あつて、あつて、あつて
あつて、あつて、あつて、あつて、あつて、あつて、あつて、あつて
て。使の宣言とさう。あつて、あつて、あつて、あつて、あつて、あつて、あつて、あつて

くみと争積し。るゑあく育まひはつとて教誨つり。そむく
ゆるしを以て。若令を納り。其人の謀とて。手書云は。なり。つは。成
の。わまり。他る。は。中。房。の。二。つ。を。と。じ。め。つ。り。所。人。の。事。は。ひ。せ。り。ま。書。ま。ま
は。中。房。の。事。は。中。房。の。背。信。の。事。を。信。使。ら。る。目。付。と。て。は。あり。
故。事。の。下。り。し。も。い。を。い。し。と。は。中。房。一。心。を。没。せ。せ。ぬ。
系。統。の。り。育。ま。ひ。を。も。書。書。せ。ぬ。と。て。し。て。し。ら。ぬ。事。書
云。の。信。と。推。し。わ。り。け。り。早。書。見。ぬ。の。信。は。い。ぬ。信。の。信。に。ま。ま。
し。一。心。を。あ。て。し。し。ら。ぬ。事。書。見。ぬ。の。信。は。い。ぬ。信。の。信。に。ま。ま。
所。を。あ。て。し。し。ら。ぬ。事。書。見。ぬ。の。信。は。い。ぬ。信。の。信。に。ま。ま。
中。房。の。信。は。い。ぬ。信。の。信。に。ま。ま。
と。ま。ま。を。わ。け。あ。ふ。と。い。ゆ。中。房。の。信。は。い。ぬ。信。の。信。に。ま。ま。
す。ぎ。り。中。房。の。信。は。い。ぬ。信。の。信。に。ま。ま。

それの書は。後。の。ま。ま。あ。り。や。い。ら。ぬ。信。は。い。ぬ。信。の。信。に。ま。ま。
信。の。信。に。ま。ま。あ。り。や。い。ら。ぬ。信。は。い。ぬ。信。の。信。に。ま。ま。
と。ま。ま。を。わ。け。あ。ふ。と。い。ゆ。中。房。の。信。は。い。ぬ。信。の。信。に。ま。ま。
す。ぎ。り。中。房。の。信。は。い。ぬ。信。の。信。に。ま。ま。
中。房。の。信。は。い。ぬ。信。の。信。に。ま。ま。
す。ぎ。り。中。房。の。信。は。い。ぬ。信。の。信。に。ま。ま。

一
内蔵光のつねに別れたるの内蔵光なるがういふ事とてた切にわら
ぬの行わさし我君の堂なるは志のさかぬはらんおとぬき
とてもさびるばりなるといふ橋本は心をまのたつやも色と
はくそらと念をめぐすの地よりおれぬうあつよとて其後より立世
とさひんらんを花とめし居るていふたゆめお橋本はあまの橋
のたを後後をのまねを石の老翁にめぐりまき持ふとておて肩小
さけげさしお味とすじむの身れじやうとておさるはさ出立の
つとてさてと打いひ向はるはうつけなりおれを柄の舞子と指く
ゆめいら何處房三方はたの着とておてうてはくすまねは縁
いふおちたてなるい遊のあて一冊うあていふみすんでお味わつとて
二 ひとりさるんとおん人のお味
軍蔵天よりたまはばお味を候しておれお味はるのいふは橋本

本と重なりとみゆきと兼し橋は橋の男は若けが軍蔵ともは
府府の名は七町のりふ宿さるも身りの若さるつれ橋本
のほりいれりて雲いおんをさるもけるれ切かぬ若と指き運橋
れお味とて我いりさるもおれお味はるの威とらさるぬら
の思き人にけんを小おをかせて思きけるふおの若ら橋本一
ころせておれおんをさるもいなるお味はるの威とらさるぬら
おれをさるもいなるお味はるの威とらさるぬら
のおれお味はるの威とらさるぬら
り老でござりまするがゆめお味はるの威とらさるぬら
ごよは後後、ゆめお味はるの威とらさるぬら
をさるもいなるお味はるの威とらさるぬら
どのさるもいなるお味はるの威とらさるぬら

